

# HAWAII

December 2001-January 2002

12.1

情熱に満ちたオペラの故郷、  
イタリアを訪ねる



端に佇めば、美しい声で舶来りを誘い寄せ、舟を優雅させたというギリシャ神話の海の精、セイレーンの歌が聞こえてくるようだ。

創業1834年、フィオレンティノ家が四代に引きつる伝統と格式の五つ星リゾート「グランド・ホテル・エクセルシオール・ヴィットリア・ソレント」。古くはオーソトリアやハンガリーの皇帝、スウェーデン王妃、ヴァーグナー、ヴェルディ、カルーゾ、パヴァロッティ等、有名な音楽家達もゲストに名を連ねる。

建物は3棟に分かれ、古い順に「ラ・ヴィットリア」(1834年)、「ラ・リパトリー」(1882年)、「スイス・シヤレー」(1920年)と呼ばれる。それぞれの時代の名残りを留めた部屋には、19世紀の家具が置かれ、それぞれに魅力的だ。その中でも世紀のテノール歌手、ナポリで生まれナポリに死んだエンリコ・カルーゾの愛した部屋が、今はカルーゾ・スイートと呼ばれ、当時のままに面影を残している。カルーゾは晩年には船旅に情れ、必ずこの部屋で2週間余りを過ごしたという。夕暮れのベランダに立ち、日没の水平線を見ながら、何を思ったのだろうか。スカラ座の喝采と栄光の日々だろうか。部屋の片隅に置かれた楽譜と愛用のピアノが、今もカルーゾの熱い想いを語りかけてくるようだ。

Grand Hotel Excelsior Vittoria

Piazza Tasso, 34 82067 Sorrento  
Tel.: 39-081-8071044 Fax: 39-081-8771006  
資料: 02-46244-303



上: 自家製ミルリア・ラ・ハムのおリーブオイル・ポテト・チール風味  
下: イカすみのソレント、季節ごとのメニューとデザート



ホテルのおリーブ園自製エキストラ・ヴァージンオリーブオイルに  
使うジャン・ルイ・デュ・ティエーニのナポリ美術の彫刻が美しい



Carthage

JOSE MARIA GUERRERO

ホセ・マリア・グエロ

ラテンの熱いソウルが放つ  
センセーショナルな声



美しく流麗なイタリア・ベルカント歌唱の伝統を受け継ぐホセ・マリア。今彼は、永遠のプリマ・ドンナ・マリア・カラス、世界的テノール歌手ディ・ステファノやパヴァロッティなど、偉大な歌手達が師事したヴォイス・ティーチャーのマエストロ・エンザ・フェウーリから、トレーニングを受けている。いつかパヴァロッティを超えるのではと、マエストロ・フェウーリに言わしめた未完の利器だ。

1999年、ロンドンのコベント・ガーデンを始めとする各地での初リサイタルは、スタンディング・オベーションで迎えられた。ヨーロッパの各誌は、「才気煥発な華々しい歌声」等、絶賛したのだ。

来年4月、日本初リサイタルが浜離宮朝日ホールで公演される。ホセ・マリアは、そのためのレッスンに余念ないが、多忙な中彼自身とスカラ座、ナポリについて語ってもらった。

「19世紀のイタリア・ロマンティズムに魅かれる。ドラマティックで美しいメロディのプッチーニ、ジョルダノ、ヴェルディの作品が特に好きだ。『リゴレット』のマント

ヴァ公認、『トラヴィアータ』のアルフレード役は得意とする所。今後歌いたい作品は、『レクイエム』だ。特に劇場や歌う場所にこだわりはないが、ミラノのスカラ座は、名声、成功、すべての約束される場所。それだから怖い場所ともいえる。失敗は許されない。そこへ迫り着くまでは、自分自身を踏え抜いて、完成に完成を重ねなければならない。スカラ座の歴史を名実共に背負うには、それに対応できる力を養うことも、今後の目標ともいえる。

ナポリは私にとって、とても愛すべき場所だ。南イタリアの情熱、ラテンの血だ。カンフォーネ・ナポリターナには、メディテラニアン・ループとカルチャーを感じる。すなわち自分自身だ。『帰れソレントへ』は自分の得意なレパートリー。最も愛するオペラは『カルメン』だ。ドン・ホセになりきって歌える気がするのも、血が騒ぐのだ。自分の通役といいたい。オペラとは歌うと同時に、最高のドラマを創り上げる高度な総合芸術だ。全ての曲とドラマを完全に自分のものとして消化し、初めて完成という言葉がある。



● 詩人タツツォーの生地が誘う  
● 柑橋の甘い香りソレント

喧噪のナポリから高速ボートで40分。レモンとオレンジの香りに満ち溢れ、天国の水漏れ陽をふんだんに浴びるソレントは、古くからローマ人にこよなく愛され、優美なヴィラも数多い。降り注ぐ太陽が、紺碧のナポリ湾とこの街を照らす様は、ため息の漏れるほど美しい。

太陽とインスピレーションの地、ソレントから生まれたのは歴史や音楽だけではない。マンジャヤーも然り。南イタリアで唯一の三つ星レストラン、「ドン・アルフォンソ」もアマルフィ海岸に向かう途中のサンタガタにある。自家農園で丹念に育てられた野菜や、超フレッシュなエクストラ・バージンオイルの香りと味を堪能して欲しい。

断崖絶壁に建つリゾート・ホテルにチエック・イン。隣のサロンには、天井まで一面に張られたガラスのドア越しに、テラスから溢れるばかりの陽光が差し込んでいる。磨き抜かれた大理石の床に、キラキラと揺れるパームツリーの葉影。ここは、20世紀初頭のコンサーバトリー(温室)だ。アールヌーボー時代の美しいインテリアを施したタイルが、鏡に写った真白の壁に彩りを添えている。岸壁に迫り出した広いテラスの

エンソコ・カネーリが愛した部屋、カネーリ・スイート。愛用のピアノと楽譜がそのままに



ボンホイ・スイート。フランス風と平タンな調度品、夕陽のバラマが華やかなインテリア



メイン・ダイニング「アマテ」で、フェスティボ島の豪華な飾りが華やかなテラスでの食事



青い海。レモン・リキュールの里。カンツォーネの心



ソントで見る崖地景から海壁に建つ、リゾートホテルが軒を並ぶソレントの街